

幼児期の関節部湿疹と感染後の悪化を経て3～4か月で症状がほぼ消失した小児アトピーの経過 (7歳小児)

症例 ID：001-07-SM2 | 記録日：2015年11月24日

1. 診断・治療前経過

2歳頃から肘・膝の内側や目周囲に症状が出ました。食物アレルギーの疑いをきっかけに大学病院を受診し、ステロイド外用を開始しました。

2～4歳まで同様の症状が続き、4歳の冬に感染を契機として一時的に悪化したため治療を開始しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	2歳頃からステロイド外用薬を使用しました。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	2歳頃から4歳頃までです。
中止時期	4歳頃の治療開始時です。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
2歳頃	発症・外用開始	肘、膝、目周囲に症状が出て、ステロイド外用を始めました。
4歳冬	一時悪化	感染を伴って皮膚症状が強くなりました。
5歳頃・春	治療開始	抗菌薬治療後、煎じ薬、外用処置、週2～3回の漢方入浴を開始しました。
1～2か月後	変化	初期の悪化が落ち着き、症状がほとんどみられなくなりました。
3～4か月後	治療終了	皮膚状態が安定し、投薬と処置を終了しました。
7歳時	経過後	風邪や疲労時に軽い湿疹が出る程度で、治療を受けず生活していました。

4. ピーク時期

ピークは、4歳の冬に感染を伴ってアトピー症状が強くなり、治療開始初期にも一時的な悪化がみられた時期です。

5. 困りごと

- 保育園生活のため、内服が不規則になることがありました。
- 感染を伴う皮膚症状に対し、抗菌薬治療と毎日の処置が必要でした。

6. 経過のまとめ

治療開始後1～2か月で症状がほとんどみられなくなり、3～4か月で治療を終了しました。

7歳時には、風邪や疲労時に軽い湿疹が出る程度で、日常的な治療は不要となっていました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。